

2019 年度（令和元年度）
福山大学 FD・SD 活動報告書

福山大学大学教育センター
教育開発部門

はじめに	- 1 -
1. 第 1 回 FD・SD 研修「平成 30 年度教育振興助成金対象研究の成果発表会」	- 2 -
2. 第 2 回 FD・SD 研修「第 6 回福山大学教育改革シンポジウム」	- 4 -
3. 第 3 回 FD・SD 研修「デート DV ～人と人とのより良い関係を築くために～」	- 6 -
4. 第 4 回 FD・SD 研修「障害のある学生への支援～入学前から卒業に向けての取り組み のあり方～」	- 8 -
5. 令和元年度福山大学学部・学科・大学院研究科の FD・SD 活動報告	- 10 -

はじめに

教育基本法はその第 9 条で教員の資質・能力の向上について定めている。曰く、「法律に定める学校の教員は、自己の崇高な使命を深く自覚し、絶えず研究と修養に励み、その職責の遂行に努めなければならない。」「前項の教員については、その使命と職責の重要性にかんがみ、その身分は尊重され、待遇の適正が期せられるとともに、養成と研修の充実が図られなければならない。」と。学校教育法のいわゆる 1 条校たる大学の教員が、ここにいう教員に含まれないはずはない。とりわけ、大学を取り巻く内外の環境の劇的な変化の中で教員に求められる資質・能力が高度化し拡大している状況の下、それに対応しうるための研修の重要性は日増しに高まっていると言っても過言ではない。平成 25 年 5 月 28 日に教育再生実行会議はその第三次提言「これからの大学教育等の在り方について」の中で、①グローバル化に対応した教育環境づくりを進める、②社会を牽引するイノベーション創出のための教育・研究環境づくりを進める、③学生を鍛え上げ社会に送り出す教育機能を強化する、④大学等における社会人の学び直し機能を強化する、⑤大学のガバナンス改革、財政基盤の確立により経営基盤を強化する、という 5 つの課題を掲げた。これからの大学教員に求められる資質・能力とは、これらの課題に適切に対処しうる力であろうし、そのための研修機能ないし FD（ファカルティ・ディベロップメント）の充実強化がいっそう図られねばならない。

本学では、授業内容・方法の改善、教員の資質・能力向上等、大学教育の質的な向上を目的とした組織的な取り組みとしての FD の重要性が早くから認識され、十数年前から研究・研修活動が続けられてきている。当初は、教務委員会および自己評価委員会が中心となって企画・運営されてきたが、平成 21 年 4 月に大学教育センターが設置されると、翌々年の平成 23 年（2011）以降は、センターの教育評価・改善部門（平成 26 年度より教育開発部門に改称）がその役割を引き継ぎ、今日に至っている。そのため、「大学教育センター規則」の第 3 条には、担当業務 10 項目のうちの第二として「教育内容・教育方法の改善に係る全学的な企画、推進、組織的な研修（FD）に関すること」が明記されている。同規定に基づき、現在、全学的な取り組みとして、大学教育センター教育開発部門が中心となって、FD 活動を実施している。また、これらの FD 活動については事務職員の参加も奨励しており、SD（スタッフ・デベロップメント）活動となっている。

ところで、規模や内容など大学や学部・学科の特色が異なれば、FD・SD のニーズが異なるのは明らかであり、大学全体としての FD・SD の取り組みの他にも、各学部や学科単位で研修活動が行われることが望ましい。こうした観点に立って、本学では全学的な FD・SD に加えて、学部・学科ごとに FD・SD の諸活動を展開してきている。

本報告書は、令和元年度に本学で実施したこれらの FD・SD 活動の記録をまとめたものである。

令和 2 年 3 月 31 日

大学教育センター センター長 大塚 豊

同 教育開発部門長 佐藤英治

1. 第1回FD・SD研修「平成30年度教育振興助成金対象研究の成果発表会」
令和元年7月17日（水）、「平成30年度教育振興助成金対象研究の成果発表・情報共有」をテーマとして、今年度の第1回FD・SD研修を大学会館3階ICT教室「CLAFT」にて実施した。発表演題は6演題で、以下に示す。多くの学科から、各学科の教育における新たな取り組みについて報告があった。

1. 特色ある教育方法開発助成

N O	研究者名 (代表者)	学科	研 究 テ ー マ	課題番号
1	山之上 卓	共同利用 センター	福山大学における ICT 活用による教材開発と学修支援 - 平成 27～28 年度 同プロジェクトの継続 - 受講者参加型オンライン学習教材の作成を通じた心理学検定合格率向上プロジェクトの展開 1-1 ICT を活用した大教室で対応可能な共通教育用科学教材の開発と運用方法の検討 (共同利用センター 鶴崎健一) 1-2 受講者参加型オンライン学習教材の作成を通じた心理学検定合格率向上プロジェクトの展開 (心理学科 宮崎由樹) 1-3 ICT を活用した情報倫理教育の普及 (情報工学科 山之上卓) 1-4 薬学部新入学生の Cerezo を用いた現状調査 (薬学科 石津隆) 1-5 2018 年 12 月 26 日に開催された私情協のアクティブ・ラーニング対話集会への参加と、本学の ICT 活用に資する情報収集 (メディア・映像学科 内垣戸貴之) 1-6 2019 年 3 月 14 日～に開催された情報処理学会全国大会における「会話の盛り上がり」と感情の関係の調査」に関する発表 (情報工学科 森田翔太)	PERG2018-101
2	記谷 康之	大学教育 センター	I R のための学内データ統合の試み - 教育方法改善を目的として -	PERG2018-102
3	大城 朝子	税務会計	SGD によるプロジェクト型学習授業の実践～ベンチャー立ち上げにつながるアクティブラーニング～	PERG2018-103

2. 学生の参加する社会連携活動助成

N O	研究者名 (代表者)	学科	研 究 テ ー マ	課題番号
4	前田 吉広	大学教育 センター	「社会人基礎力育成グランプリへの出場及び大学間交流イベントの企画・運営を通じた社会人基礎力の育成」	PERG2018-104
5	佐藤 圭一	建築	ギャラリー「蔵」を拠点とした福山市西部の地域デザイン	PERG2018-105

3. 学科横断型教育プロジェクト助成

N O	研究者名 (代表者)	学科	研 究 テ ー マ	課題番号
6	香川 直己	工学部	みらい工学教育プロジェクト(課外型活動)	PERG2018-106
			6-1 知的生産技術学修プロジェクト:ET ロボコンに挑戦 (スマートシステム学科 沖俊任、香川直己、菅原聡、仲嶋一、田中聡、佐賀正典)	
			6-2 ゲーム製作によるソフトウェア開発工程体験 (情報工学科 山之上卓、新谷敏朗、宮崎光二、池岡宏)	
			6-3 学生フォーミュラカー開発に挑戦 (機械システム工学科全教員)	

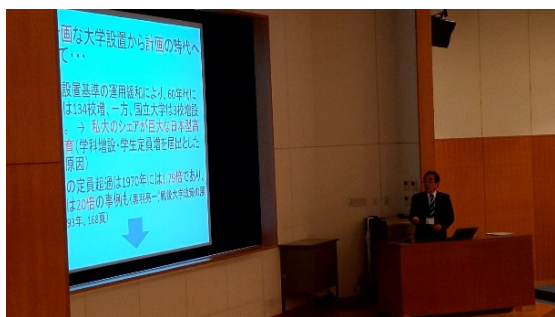
発表はポスターの展示や映像を用いたものなど様々な形式でなされ、活発な討論や意見交換が行われた。106名の参加があり、大変盛況であった。今回のFD・SD研修が、各学科やセンターにおける今後の教育改善に反映されること、新たなアイデアの萌芽となることが期待される。



2. 第2回FD・SD研修「第6回福山大学教育改革シンポジウム」

令和元年9月19日(木)、第6回福山大学教育改革シンポジウムが1号館大講義室(01101教室)で開催された。本年度の教育改革シンポジウムは「福山大学の教育・研究のゆくえ」をテーマとし、パネラー報告と全体討議の2部構成で実施された。教職員の参加は149名であった。

第1部のFD・SD講演会では、大塚豊副学長より、私立大学等改革総合支援事業についての全体説明がなされた。その後、門利有樹子経理係長と林孝彦用度課長より私立大学等改革総合支援事業の「タイプ1 特色ある教育の展開」及び「タイプ3 地域社会への貢献」について、文部科学省が求めている大学の在り方と本学の状況について報告が行われた。



本シンポジウムでは、参加者から様々な意見・質問が寄せられた。その一部を下記に示す。
 なお、本シンポジウムの具体的な内容は『大学教育論叢』第6号（福山大学大学教育センター、2020年3月）に記載されている。詳細は同書を参照されたい。

コメント・質問

- タイプ1を担当された門利さん、タイプ3を担当された林さんの地道で正確な調査には感心致しました。本学がおかれた状況が良く理解できました。今後どのようなことに取り組んでいかなくてはならないか、少しでも点数が取れるように次年度に向けて対策をたてていかなくてはならないと感じました。私個人としては薬学部でメンター活動を担当しているので、タイプ1-⑩の「メンターへの定期的な研修」が何とかできないか、できれば全体的に他のサポートスタッフを管理している部門と協力して研修等できるようにないか検討していきたいと思っております。
- 本支援事業はややもすると「合格」することが主目的となる予備校的な対応となりがちであると思うが、大事なことは本学のミッション「地域の中核を担う幅広い職業人の育成」に立ち返ることではないか。すなわち本学のミッションから見て、本学の教育・研

究・社会貢献が今後どのように展開していくべきであるかについて、全員の意識を統一することが必要だと思う。具体的には各センター長、学部長、副学長などから現状や今後の方針についてご説明頂き、それをふまえて、全員で何をすべきか、何ができるかを考える方法がとれると思う。いずれにしても全学的にこのテーマで教育改革シンポジウムが開催されたことは画期的だと思う。

- 学習成果の可視化と教学マネジメントによる内部質保証の実質化と同様に、この事業に参加しようとすることは評価や補助金獲得ありきではないことだと感じました。日常のフローに埋め込むことは容易ではないと思いますが、業務負担増にならない配慮したうえで、改善をすすめていかなければならないことは理解できました。
- とても勉強になりました。現在包括的連携協定で国交省中国地方整備局からの受託研究や広島県警からの共同研究としての社会連携にも携わらせていただいておりますが、もっと頑張っていかなければならないと思いました。

3. 第3回 FD・SD 研修「デート DV ～人と人とのより良い関係を築くために～」

令和元年 11 月 20 日（水）、令和元年度福山大学第 3 回 FD・SD 研修会が 1 号館 1 階大講義室（01101 教室）で開催された。「デート DV 防止ひろしま」というデート DV 未然防止教育の普及に努め、アウェア（DV 防止に努める NPO 法人）認定デート DV 防止プログラムファシリテーターである奥野しのぶ氏、橋本陽子氏を講師として招いた。

今回は「人と人とのより良い関係を築くために」というテーマで開催され、前半部分ではデート DV とは何か、後半部分ではデート DV に基づいたハラスメントについてハラスメントの向上と境界線についての講演がなされ、教職員 140 名の参加があった。



まず、奥野講師より、さまざまな暴力や DV につながる関係性について話があった。暴力とは身体への暴力だけではなく、心への暴力や束縛ネットや SNS での誹謗中傷なども暴力にあたること、その事例等が示された。また、暴力を使って相手を思い通りにするという関係性が DV であり、上司や部下、先輩後輩の関係であればパワハラやセクハラ、男女や夫婦関係であれば DV やデート DV と呼称されるとのことであった。

相手より自分の方が優れているという特権意識があると、相手は自分の言うとおりにするという意識や相手は自分のものだからという意識になりやすい。そこに立場や人数など力の差ができて支配の関係となる。DV をする人は「もし意見が違ったら暴力を使ってでも相手を思い通りにしていい」と考えているからこそ、感情を爆発させたり意見を押し付けたりする。そして「ちょっと意地悪しただけ」「自分のためだから」「謝っているのだから」と暴力を軽く考えてしまう。暴力を容認し、暴力に甘いとそこに暴力が起こっていることに気づくことができない。暴力を使わず解決するのが適切なやり方であり、まずは暴力が起こっているのだと気づくことが大切であるとのことであった。

続いて、橋本講師よりデート DV に基づいたハラスメントについて解説がなされた。本来、男と女、子供と大人などは対等ではあるが、教師や生徒、上司と部下など年齢差からくる力の差や、社会的に作られた枠組みの中で力の差がもたらされており、これによって暴力が起こることが問題である。対等意識がある人はお互いを大事にしたいので解決策を考えるが、ハラスメント意識がある人は「自分が優先されて当然」と考える。それに対してハラスメントを受ける人の心理は、「自分がだめだから相手を怒らしてしまう」「暴力を振るわれている自分が恥ずかしい」「相手は変わってくれる」と感じている人が多い。

人と人の中には見えない境界線がある。健全なコミュニケーションはこの境界線にあった距離で話ができ、話が一方的でないなど、例えるならばキャッチボールのようなものである。それに対して不健全なコミュニケーションは話すときにボールを大きく見せようとしたり、会話を受けるより投げるばかり考えていたり、無視をしたり、怒鳴って批判したりとドッジボールのようである。このような境界線を越えてくる人に対して、いくつかの心の護身術がある。例えば、境界線が弱くなりがちなことについて、嫌なことは嫌と言う、お金の貸し借りはしないなど、あらかじめルールを決め、対応策を用意しておく。また、迷ったら即答せず、「考えておくね」などと時間を置く、きっぱりと意見を言うなどである。きっぱりと意見を言うことは、きつくなりすぎると相手を侵害することになり、弱すぎるとまた侵入されるので、境界線上で話すことが大事である。ハラスメントにならないためのコミュニケーションには、「自分の感情に気づくこと」「相手に思いを伝えること」「尊重しながら話すこと」の3つの要素がある。自分が本当はどうしたいのか気づき、またそれを明確に相手に伝えることが大切である。

今回の FD・SD 研修会では「人と人とのより良い関係を築くために」というテーマで、暴力とは何か、DV についての心理やコミュニケーションについて学ぶことができた。身近に DV が起こった場合、正しい知識を持って DV に気づき、さまざまな相談機関等と連係

をとっていかねばならない。学生間のデートDV防止のためにも、教職員自らが正しい知識を持ち、この知識を学生間にも広めていくことが必要である。

4. 第4回FD・SD研修「障害のある学生への支援～入学前から卒業に向けての取り組みのあり方～」

令和2年3月2日（月）、令和元年度福山大学第4回FD・SD研修会が1号館大講義室（01101教室）で開催された。今回のテーマは、「障害のある学生への支援～入学前から卒業に向けての取り組みのあり方～」で、159名の教職員が参加した。講師として、広島大学大学院教育学研究科特別支援教育学講座の川合紀宗教授にご講演いただいた。



まず、日本学生支援機構（JASSO）が定めている、障害には以下のようなものがあることが示された。

障害種別	区 分
視覚障害	盲、弱視
聴覚・言語障害	聾、難聴、言語障害のみ
肢体不自由	上肢機能障害、下肢機能障害、上下肢機能障害、他の機能障害
病弱・虚弱	内部障害等、他の慢性疾患
重複	重複
発達障害 （診断書有）	S L D(限局性学習症／限局性学習障害)、A D H D(注意欠如・多動 症／注意欠如・多動性障害)、A S D (自閉スペクトラム症／自閉症 スペクトラム障害)、発達障害の重複
精神障害	統合失調症等、気分障害、神経症性障害等、摂食障害・睡眠障害等、他の精神障害
その他の障害	上記に該当しない障害
発達障害（診断書 無・配慮有）	S L D(限局性学習症／限局性学習障害)、A D H D(注意欠如・多動症／注意欠如・多動性障害)、A S D (自閉スペクトラム症／自閉症 スペクトラム障害)

令和元年度（2019年度）大学、短期大学及び高等専門学校における障害のある学生の修学支援に関する実態調査結果報告書より

これらの、障害を持つ学生の大学、短期大学、高等専門学校における在学数は年々増加している。義務教育の生徒は減少しているため、障害のある学生の全体における割合は増加していくことが考えられる。障害のある学生への対応が、大学の一つの強みとなってくる。

大学・短期大学への進学率は 58.1%あり、全体への進学率は上昇傾向にある。子供が減っている中、学生数を維持しなければ大学の経営に関わるため、数年前と比べると「難しさのある学生」が増えている。そのような学生のモチベーションや進路など、良い形で卒業に導けるかが大学の教員に求められている。

障害のある学生が抱える修学する上での困難は、「学習上の困難」、「生活上の困難」、「障害特有の困難」、「人間形成上の困難」などがあげられる。川合先生より、参加者が数名のグループになって、上記の 4 つの困難にはどのようなものがあるのか話し合うよう指示があった。その後、いくつかのグループにより、下記のような具体例が挙げられた。

- ・ 学習上の困難：授業中寝る、板書が取れない、書けと言ってもノートが取れない。手とり足取り具体的に言わないとできない学生が多い。学習に対する心構えができていない。入学してからのギャップについていけなくてモチベーションがない。
- ・ 生活上の困難：遅刻をする。夜寝ていない。大学以前からその習慣が根付いている。生活リズムが保てない。
- ・ 障害特有の困難：耳が聞こえない学生が授業を受けられない。
- ・ 人間形成上の困難：相手のことを考えない。相手を立てない。仲間外れになって、いじめられる。コミュニケーション能力が足りない。疑問があるときに質問することができない。



不当な差別的扱いの禁止や合理的配慮の提供は、「大学等において、組織として当然に行わなければならないことと位置付けられている。（文部科学省、2018）」とされており、本人の特性や困難に応じて何らかの配慮を行っていかなければならない。合理的配慮は一般的に、障害のある学生本人および保護者からの申し出や、チューターと呼ばれる教員が障害のある学生本人に聞き取りをして、修学にどのような困難があるか、どんな支援が必要か決定を行う。また、障害学生支援専門の部署がある場合もある。聴覚障害や視覚障害など「見えやすい障害」のある学生は、どんな支援が必要かも見えやすく、本人から大学へ支援を要請することができる場合も多い。しかし、発達障害や本人が要支援を自覚していない場合などの「見えにくい障害」の場合、対話の中で本人の障害への認識やどういった支援が提供できるかを確認・整理した上で、合理的配慮の内容を決定することが必要である。こういった支援は入学直前直後、あるいは合格してから早期に必要となってくるた

め、障害のある学生が常に入学してくるという状況の中で、どういふ対応ができるか、これまでどのような対応をしてきたかなどの情報を集約することが求められている。また、入学前に保護者などから学生の困難について相談がある場合もある。早期に学生や保護者に面談を求める、高校時代の教師に対応策を確認しておくなど、情報収集が必要となってくる。

実際に行われている具体的な支援としては、誤字脱字やスペルミスのチェックシートをレポートと一緒に提出させる、スケジュールの確認を促すなど、本人の障害への対応や自分で対応する工夫を本人と考える。そして、工夫したこと、配慮をしたことについて学生からフィードバックを受けることで、より良い支援をすることができる。教員では支援ができないことも、ボランティアの在学生の力を借りて、学習支援を行う場合もある。

また、学修だけではなく、就職についても早くから対応が求められる。雇用形態は一般に障害者雇用枠かなど、面談を行い本人の意思を確認する。障害者枠も一つの選択肢だということを提示することも必要である。一方で、修学に集中し、卒業後にハローワークなどと連携して就職を決めていくことも珍しいことではない。また、卒業後も定期的な面談を行うなど、フォローを行うこともある。

今回のFD・SD研修会では、教員の都合ではなく障害のある学生に理にかなった支援を提供することの大切さを学んだ。また、近年海外からの移住者や留学生も増えており、障害だけではなく多様性への配慮も求められるようになっている。私たち教員が、いかに無理なくそして息長く支援をしていけるか、これらの学生が、いかに満足感をもって学び、卒業していけるのかが、大学のクオリティーにつながっていくと考えられる。

5. 令和元年度福山大学学部・学科・大学院研究科のFD・SD活動報告

学部・学科・大学院研究科では、各組織の専門性や特性に合わせて、以下のFD・SD活動が実施された。

令和元年度大学院研究科及び学部・学科FD研修実施調査表							
研究科・学部名・学科名	テーマ	実施回数	実施場所	実施日時	講師	参加人数	成果
経済学部	危機管理・自然災害対応に関するFD	1	1号館3階第1会議室	2019年4月24日	尾田学部長 平田学部長補佐	27	危機管理マニュアル、自然災害対応マニュアルに基づき、緊急時等の対応について学部教員に周知した。
経済学部	コンプライアンス研修	1	1号館3階第1会議室	2019年6月19日	尾田学部長	30	研究倫理等コンプライアンスについての定期的な研修を行った。教員はこの後、eラーニングを行い、さらに理解を確認した。
経済学部	経済学部のカリキュラム改革について	3	1号館3階第1会議室	①2020年2月28日 ②2020年3月2日 ③2020年3月9日	北浦経済学科長 田中征史講師	①18 ②15 ③14	専門科目の必修科目について、将来のカリキュラム変更に向け、ディプロマポリシーとの関係などについてディスカッションを行った。
国際経済学科	授業改善を考える	1	経済学部長室	2020年2月28日	グループディスカッション方式	6	学科教員間で授業評価アンケートの結果と授業改善（特に関連学習意欲や集中力を増す方策）について話し合った。互いの授業方法や問題意識を共有するよい機会となった。
心理学科	学科のブランディングについて	1	29号館コミュニケーションルーム	2019年9月18日 16:00-16:25	なし	7	心理学科独自のブランディング戦略として、公認心理師と犯罪心理学を中心に検討していくこととなった。
心理学科	2020年度入試ルーブリックの作成	1	30号館コミュニケーションルーム	2020年2月14日 14:30-15:00	なし	8	総合型選抜（従来のAO入試）ルーブリックの学科部分を、資料に基づき作成した。
心理学科	公認心理師養成をめぐる大学関係者の悩み	1	31号館コミュニケーションルーム	2020年2月20日 11:10-12:30	早稲田大学人間科学学術院 鈴木伸一教授	11	実習形態の変更、実習先として福山市との包括協定を利用していくなどを実習WGで検討していくこととなった。

人間文化学部・人間文化学科	授業研究検討会「ヨーロッパの歴史と文化2」	1	1号館3階学修支援相談室（01322）	2019年12月10日 5限	村上亮 先生	1	福山大学大学教育センターの第3回の授業研究検討会（人間文化学科のFDとして共催）に講師として参加。共通教育の授業を公開し、参加者との授業検討・協議を通して、その改善の視点やアイデアを得た。
人間文化学部・人間文化学科	人間文化学部FD研修「新任教員の悩み相談」	1	1号館5階会議室	2019年11月13日 15：10～15：45	なし（全教員での討議）	8	人間文化学部のFDに参加・助言 下記の4点について学んだ。 （1）モチベーションが低い学生を講義に引きつけるために行っていること （2）配付資料を作成する際に気をつけていること （3）レスポンスで得た質問やコメントへの効率的なフィードバック方法や、その他有効な活用方法について （4）講義や研究以外で学生に指導していることがあるか、どのように指導をしているか。 などについて、意見交換を行った。
人間文化学部・人間文化学科	留学生への対応	1	1号館5階会議室	2020年3月6日 11：30～12：00	清水 先生	8	人間文化学部のFDに参加・協力 以下の4点について学んだ。 （1）相談事案 （2）中国人留学生についてどのような印象を？ （3）中国におけるコミュニケーション文化について （4）相談事案への回答
人間文化学部・人間文化学科	学部生・留学生の学習状況に関する情報交換	10	1号館4階資料室	学科会議ごとに月一回実施 2019年 5月22日、6月19日、7月17日、9月10日、10月16日、11月27日、2020年 1月22日、2月14日、3月6日	学科長 小原教授 教務委員 脇准教授 学生委員 村上講師 就職委員 柳川講師	8	課題のある学生に関する情報共有と指導方法の確認
スマートシステム学科	授業評価アンケート総括	1	02205会議室	2020年3月3日	仲嶋教授	7	授業評価の状況を学科教員全員で共有化すると共に、今後の方向性について討議し、その結果をまとめた。
スマートシステム学科	R元年度自己点検報告	1	02205会議室	2020年3月17日	仲嶋教授	8	自己点検評価の結果について、学科教員全員で確認し、特に未達項目の改善方法を検討した。
スマートシステム学科	学科教育プログラム点検・評価	1	02205会議室	2020年3月25日	仲嶋教授	8	令和元年度アセスメントポリシーにより各項目の達成度や評価方法などについて協議を行った。また、電気系教員協議会の資料により教育指導の方法に関して情報を共有した。
機械システム工学科	機械システム工学科将来構想検討	6	24号館会議室等	2019年 7月24日 14:40～15:50 7月31日 14:40～16:10 8月30日 16:00～17:30 9月4日 13:00～14:30 9月17日 10:00～12:00 2020年 3月9日 10:00～12:00	なし（討議形式で実施）	8	ティーチングポートフォリオに関する専門書2冊について参加者で輪講した。ティーチングポートフォリオの意義や作成方法の概要を把握した。
機械システム工学科 建築学科	ティーチングポートフォリオ勉強会	1	24号館会議室	2019年12月24日 10:40～12:00	なし（輪講形式で実施）	8	ティーチングポートフォリオに関する専門書2冊について参加者で輪講した。ティーチングポートフォリオの意義や作成方法の概要を把握した。
情報工学科	新カリキュラムに関するFD	1	04202	2019年4月9日 17：35～18：15	なし	9	カリキュラム標準J17について情報共有と学科の現在のカリキュラムの問題点の解明 ワーキンググループの設立
情報工学科	授業評価アンケートに関するFD	1	04202	2020年3月5日 18：00～18：45	なし	8	授業評価アンケート結果に基づき、授業の改善点と改善方法を明らかにした。
情報工学科	学年別GPAを用いたIRのためのFD	1	04202	2020年3月18日 14：30～16：00	なし	9	学年ごとにGPAと評定平均、AO入試、奨学生、研究室の散布図を作成し、関係性を議論した。
工学部建築学科	学科の問題点解決のためのFD（サブテーマ：成績下位の学生に対する対策、卒業設計における課題について）	3	2号館2階会議室	2019年 9月11日、9月18日、11月28日	大島秀明	10	成績下位の学生に対する対策として、学科内で意識の共有ができた。また実際に休学中の学生に対して、FDで行ったアドバイスのによりその後の復学につながった。
生物工学科	卒業研究のルーブリック評価の実践	1	2432教室	2020年1月25日	松崎教授	12	ルーブリック評価を用いて、学科の卒業研究評価を実践した。
生命工学部・生命栄養科学科	①管理栄養士特別演習（新規科目）の説明 ②日本人の食事摂取基準2020年版の説明 ③管理栄養士国家試験出題基準の改定について ④管理栄養士・栄養士養成の栄養学教育モデル・コア・カリキュラムの概要	1	18号館セミナー室	2019年9月17日 15：00～16：30	石井、村上	16	・令和2年度に新規開講科目は学科教員が分担する為、理解しておく必要があり、説明ができた。 ・令和2年度から改訂される食事摂取基準、令和元年度国試出題基準、管理栄養士養成のコアカリを全教員に資料と共に解説出来、授業や学生指導に活用いただくよう助手も含め、お願いできた。

海洋生物科学科	1 学年130人体制に向けた学生実験の検討	2	16号館・図書セミナー室	2019年 6月13日、6月24日	三輪、有瀬、高村、倉掛、金子、北口、阪本、山岸、渡辺、水上	10	1 年生および 2 年生の学生実験の担当者、実施内容を作成した。令和 2 年度予算の実習用顕微鏡の補充計画を策定した。
海洋生物科学科	内海生物資源研究所の水族館の管理運営業務について	3	内海生物資源研究所	2019年7月18日、 2020年2月12日、3月6日	真田、水上、黒澤	3	2019年度 附属水族館の展示について審議された。水族館のホームページのリニューアルについて報告された
薬学部	自然災害対応マニュアルについて	1	医薬品情報室（34号館34415教室）	2019年4月25日 13：00-13：50	関田隆一先生（工学部スマートシステム学科准教授）	37	福山大学 自然災害対応マニュアルをもとにして、今後予測される自然災害に対応するために関田隆一先生（工学部スマートシステム学科）を講師として研修した。
薬学部	危機管理基本マニュアルについて	2	医薬品情報室（34号館34415教室）および模擬病室34417～34422（SGD）	2019年4月25日 13：50-15：20	なし（討議形式で実施）	37	危機管理基本マニュアルについてSGDを行い、その内容を共有するとともに、問題点を抽出した。
薬学部	深い学びを実現するアクティブラーニング ジグソー法	3	薬学部会議室（34号館30308教室）	2020年1月23日 13：00-16：45	田村豊先生（薬学部教授）	32	新しいアクティブラーニングによる教育法として注目されているジグソー法について研修した。
大学教育センター	研究費の不正使用防止のための研修	1	01437室	2019年6月5日	大塚 豊	13	関連資料に関する大学教育センター長による説明と理解度確認テストを通じて、科研費ほか外部資金使用における不正を防止するための意識がたかまった。
大学教育センター	授業研究（特別活動の指導法）	1	授業実施の01204教室および学修支援相談室	2019年7月11日	大塚 豊	9	授業参観後の検討会での討議を通じて、授業者のみならず参加者全員が自らの授業の改善について考える良い機会となった。
大学教育センター	授業研究（教職概論・道徳教育の研究）	1	授業実施の01203教室および学修支援相談室	2019年11月27日	牧 貴愛	5	授業参観後の検討会での討議を通じて、授業者のみならず参加者全員が自らの授業の改善について考える良い機会となった。
大学教育センター	授業研究（ヨーロッパの暮らしと文化2）	1	授業実施の01104教室および学修支援相談室	2019年12月3日	村上 亮	6	授業参観後の検討会での討議を通じて、授業者のみならず参加者全員が自らの授業の改善について考える良い機会となった。
大学教育センター	授業研究（暮らしとバイオ）	1	授業実施の01101教室および学修支援相談室	2020年1月15日	鶴崎 健一	6	授業参観後の検討会での討議を通じて、授業者のみならず参加者全員が自らの授業の改善について考える良い機会となった。
国際センター	国際センターの業務と目的	1	01507室	2019年5月10日	経済学部 早川達二教授	2	教員自己点検評価の作成準備のために、国際センターの業務と目的などについて議論、確認を行い、効果的な取り組み方法を検討した。
人間科学研究科	2020年度公認心理師国家試験対策について	1	29号館コミュニケーションルーム	2019年9月5日 16:15-16:45	なし（討議形式で実施）	10	公認心理師試験の過去問と受験した教員の勉強法を共有して、来年度受験する院生の指導方法を議論した。
人間科学研究科・人間文化学部・心理学科	公認心理師養成をめぐる大学関係者の悩み	1	29号館コミュニケーションルーム	2020年2月20日 11:10-12:30	早稲田大学人間科学学術院 鈴木伸一教授	11	実習形態の変更、実習先として福山市との包括協定を利用していくなどを実習WGで検討していくこととなった。
薬学研究科	情報検索システム ディスカバリーサービスをもちいた学術情報の収集	1	34号館 34402講義室	2019年7月19日 15：00-16：15	ディスカバリーサービス担当者	19	情報検索システム ディスカバリーサービスをもちいて種々のデータベースや蔵書からの学術情報の収集について研修した。